

来週の「売り物記事」はこれ



2018年4月6日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

松田喬和の「ずばり聞きます」

松井孝治・慶応大教授（元官房副長官）

夕刊特集ワイド 9日（月）

森友学園への国有地売却を巡る決裁文書改ざん問題で、官僚の「忖度（そんたく）」に疑いの目が向いています。「内閣人事局」が原因という見方が強いですが、何がこの事態を招いたのでしょうか。通商産業省（現経済産業省）出身で民主党参院議員時代に官房副長官を務め、「政」と「官」の双方の世界に精通する松井孝治・慶応大教授＝写真＝に、松田喬和・毎日新聞特別顧問が「ずばり聞きます」。



企画「縮む日本の先に 地方はいま」 社会面 10日（火）から



都市部への人口流入の陰で、地方は深刻な過疎化と人口減に直面しています。財政赤字に苦しむ国の支援には限界があり、人口減にあらがおうとすれば、自治体は相当な予算やエネルギーを投入しなければなりません。縮小に歯止めがかからない地方の未来は、どこに向かうのか——。自治体や住民の思いを交えながら、最前線で今、何が起きているかを描きます。

平昌から北京へ 月刊パラリンピック

スポーツ面 10日（火）

国内冬季障害者スポーツの大きな課題の一つが「世代交代」。3月18日まで行われた平昌パラリンピックでも課題は残りましたが、一方で出場5種目で金を含むメダル5個を獲得した21歳の村岡桃佳選手（早大）など、奮闘した若手選手もいました。4月の「月刊パラリンピック」では、平昌での教訓と収穫とを糧に、2022年北京大会に向けて新たな一歩を踏み出している若手たち——アルペンスキー立位の17歳・高橋幸平（岩手・盛岡農高）、同じく21歳・本堂杏実（日体大）、ノルディックスキー距離の17歳・川除大輝（日立ソリューションズJSC）の3選手の「今」を取り上げます。



第76期名人戦七番勝負が開幕 11日（水）



将棋界の最高峰を争う、第76期名人戦七番勝負が11日（水）、東京・椿山荘で開幕します。佐藤天彦名人（30）＝写真左＝に挑むのは、羽生善治竜王（47）＝同右。2年前も同じ2人の対局でしたが、その時とは立場が逆。この2年間、佐藤名人は、AIとの対決や新戦法の研究を重ねています。羽生竜王は永世7冠を達成し、タイトル通算100期の大記録がかかります。大勝負にご期待ください。

「戦国時代」の国際社会

「米国第一」 中露の強権支配長期化で世界はどこに向かうのか

オピニオン面 【論点】 11日（水）

国際社会が戦国時代の様相を強めています。トランプ米大統領の「米国第一」旋風が吹き荒れる中、中国の習近平国家主席とロシアのプーチン大統領が今春、相次いで強権支配を固めました。導き手不在の時代に世界はどこに向かうのでしょうか。特定非営利活動法人「言論NPO」が先月主催した「東京会議」に参加した米国、イタリア、インドの専門家に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

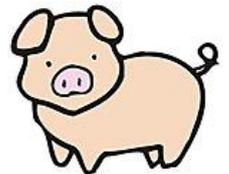
ニッポンの食卓 育ちの現場から くらしナビA面 11日（水）



偏った栄養や朝食離れ、貧困、そして地域間格差——。「食育」の重要性が指摘される一方で、現代の子どもたちを取り巻く食の環境は複雑化しています。シリーズ第2部は、現市長の初当選を機に、市立全中学校の完全給食（米飯やパン、牛乳、おかず）を昨年12月に実現させた川崎市の事例を入り口にしながら、さまざまな育ちの現場から報告します。

ハマりました くらしナビB面 11日（水）

家畜のブタを小型化し、芸能人や海外セレブからはペットとしての人気が高いというミニブタ。人間に懐き、きれい好き。頭も良くて芸を覚えるそうです。東京都内の女性が飼っている12歳（人間だと70歳前後）の雄「風太郎（ふうたろう）」は、もはや子ども同然だとか。「プニプニの下腹」に触れられるのは飼い主の特権。ユーモアたっぷりの同居生活を聞きました。



企画「試練の再始動」 経済面 10日（火）～



日銀の黒田東彦総裁が9日に再任され、新たな任期がスタートします。過去5年で実現できなかった2%の物価上昇目標の達成を目指しますが、世界的な景気の息切れ予測もあり、目標実現のめどは立っていません。長引く大規模緩和の副作用が深刻化する恐れもある中、日銀の金融政策はどこへ向かうのでしょうか。「試練の再始動」（政策編）で検証します。